



編集発行
 公益財団法人 不老会
 〒460-0008
 名古屋市中区栄
 2丁目10-19
 名古屋商工会議所内
 9:00~12:00 13:00~17:00
 土日祝休
 電話 (052)203-4580
 FAX (052)253-7123
 ホームページ
<http://furo-kai.or.jp>

新春対談

公益財団法人不老会

理事長 久野 格彦
 副理事長 杉浦 康夫
 副理事長 山本 一義

麗しき令和五年の幕明けに公益財団法人不老会理事長、両副理事長のお三方に、広報委員長藤内美也子がお話を伺いました。

藤内…あけましておめでと
 ございます。

久野理事長…おめでと
 ございます。

います。今年もよろしくお願
 いたします。

長期間にわたるコロナの影
 響で、献体ができなかった人
 がたくさんいるという認識は

ありませんが、不老会の活動
 が制約を強いられたことは否
 めません。

令和五年では、どれだけ制
 約が緩和されるのか。コロナ

自体も次々に変異しているし、
 政府は今後それぞれの自治体
 の対応に委ねられるようです

が、特別な支援でもなければ、
 「With CORONA」で、各自暮
 らしを立てなければならぬ。
 感染しても、あまり重症化し
 ないようであれば、気をつけ
 ながらも、活動が展開できる
 のではないか。今までは、感
 染回避のため、会員相互のコ
 ミュニケーションが難しく「不
 老」誌のみがその手段だった。
 しかも、その中身が「延期」や
 ら「休止」の報告ばかりでし
 た。今後、もつと活動が盛ん
 になればと願っております。

藤内…では、どんな年になる
 のでしょうか？

杉浦副理事長…当方の大学で
 は、多少の困難さもあるが、
 極力大学に戻って欲しいとの
 思いで取り組んでいて、まず
 まずの成果を上げていますが、

が、特別な支援でもなければ、
 「With CORONA」で、各自暮
 らしを立てなければならぬ。
 感染しても、あまり重症化し
 ないようであれば、気をつけ
 ながらも、活動が展開できる
 のではないか。今までは、感
 染回避のため、会員相互のコ
 ミュニケーションが難しく「不
 老」誌のみがその手段だった。
 しかも、その中身が「延期」や
 ら「休止」の報告ばかりでし
 た。今後、もつと活動が盛ん
 になればと願っております。



公益財団法人 不老会
 理事長 久野 格彦
 副理事長 杉浦 康夫
 副理事長 山本 一義
 役員一同

令和五年 元旦



新春の
 お慶びを
 申し上げます
 お多幸を
 お祈りいたします



久野格彦理事長

コロナ禍を回避しようと家に籠つてのオンライン授業ではうつになってしまいがちで、学校を離れがちになる。でも、徐々に戻りつつありますね。たまに街に出ると、意外にお年寄りが多い、また若者も多い。けれど、中間層が少ない。タフなのはお年寄りとお若者たちですね。特に、若者たちが元気でないとね。

パンデミックは三年とも言うわれていきますから、そろそろ普通の生活に戻るのではないのでしょうか。

久野理事長…兎にも角にも、不老会の方々はとつても元気ですね！先の「集い」では、遠路はるばる、公共交通機関を使ってがんがん来ちゃうんだから。シルバーカーを押してね。中には、何と九十歳になられる方が幾人もおられ、お迎えする係の者に笑顔を注ぎ挨拶されて、元気な姿を見せてくださいました。

杉浦副理事長…とにかく、若者が元気でなきゃあ、街は活気が取り戻せませんからね。

「平和ボケ」でおられるのが一番です。変な緊張感は不必要です。「平和の良さ」を、



杉浦康夫副理事長

もっともつと互いに語り合う必要がありますね。

久野理事長…現代は情報量が多い。どんどんリアルタイムで様々な情報が飛び込んでくる。遠いウクライナが今どうなっているかを知る事が出来るので、日本が如何に「平和」かを、今こそ認識しなくてはなりませんね。

山本副理事長…私の方からは、

今、不老会の会員の申し込みが急激に減っているのが悩みですね。

年間三百名ほどの申し込みが、今は百名ほどの三分の一になっています。しかも、退会者が登録者の三分の一なので、実質は七十名ほどの年間登録数になります。この状態が続けば、十年から二十年先には困ったことになります。

従って、会員のみなさん方が、親族の方々に、常に献体のことを語らないといけませんね。私の場合は、両親を献体させていただきました。私も死んでからでは、どうしようもないので、お祭りなどの時に、四人の娘、息子たちに、いつも「俺が死んだら、献体をしてくれよ！」と話したら、息

子が「了解、安心して逝ってくれ」と言うてました。(大笑い)

また、私の所属する愛知県の数万人規模のライオンズは、社会貢献のための献眼運動も実施していますが、献眼者はごくごく僅かです。献眼への意識が薄いからです。大部分の献眼者は不老会の会員ですね。要は意識の違いです。

久野理事長…ライオンズはいろいろな活動をされているからやむを得ない。不老会の会員は献眼についても意識は高いのですが、昨今、不献体が増加しています。新年の課題はこれですね。

まずは、献体登録に四名の同意者が必要な理由は何か？
 どんどん高齢化が進んでいるので、同意者が先に亡くなら

れると独り身になってしまふ。そんな時に、誰に任せるのか？

施設に入っておられれば、施設の責任者に世話をしてもらわねばなりません。

杉浦副理事長…一昔前は、大家族だったから、同意者が四名で何の差支えも無かった。現在の献体団体では二名のところもあります。要は、本人の意思が、遺体の引き取り時



山本一義副理事長

に、確実に第三者に伝えられる仕組みが必要ですね。

山本副理事長…やはり、同意者は二名くらいがどうかと思いますので、今後、審議が必要ですね。

久野理事長…本人の意思を、そばにおられる方が配慮しないとね。手続きルールの見直しは必要です。

杉浦副理事長…同意者は二人くらいが適当でしょう。また、免許証裏に設けられたドナーカードのようなものが必要ですね。それを体系化しなくてはなりません。

久野理事長…免許証裏に、ドナーと献体欄があると良いかもしれない。

また、不老会のホームページに入会についても詳細が紹

介されていますが、諸条件の敷居を低くする必要がありますね。

議論はまだまだ続きそうですが、本日はこんなところにしたい。

今年は、コロナ禍がまだ続きますが、会員みなさんにおかれては、それぞれの目標に向かって、一層邁進されるよう、心から願って止みません。

一同…本年も、どうかよろしくお願いたします。
藤内…本日は長時間に亘り貴重なお話をありがとうございました。

理事長、両副理事長はじめ会員皆さまのご健康とご多幸をお祈りして新春対談を終わらせていただきます。

医学のおはなし

五感とは、視覚（見る）、聴覚（聴く）、味覚（味わう）、嗅覚（嗅ぐ）、触覚（皮膚で感じる）の五つの感覚のことです。もともとは古代ギリシャのアリストテレスが分類したことに端を発しており、それが様々な文化に引き継がれ、現在でも広く通念として用いられています。現在では、触覚は、単純に皮膚の感覚を脳に伝えるものではなく、表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）、深部感覚（圧覚、位置覚、振動覚など）など多様な機能を含んでいることが明らかになっています。また、触覚以外の感覚として、内臓感覚、平衡感覚などが存在することが分かっています。

第六感とは、視覚（見る）、聴覚（聴く）、味覚（味わう）、嗅覚（嗅ぐ）、触覚（皮膚で感じる）の五つの感覚のことです。もともとは古代ギリシャのアリストテレスが分類したことに端を発しており、それが様々な文化に引き継がれ、現在でも広く通念として用いられています。現在では、触覚は、単純に皮膚の感覚を脳に伝えるものではなく、表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）、深部感覚（圧覚、位置覚、振動覚など）など多様な機能を含んでいることが明らかになっています。また、触覚以外の感覚として、内臓感覚、平衡感覚などが存在することが分かっています。

第六感

愛知医科大学医学部 解剖学講座

教授 内藤 宗和

第六感とは、視覚（見る）、聴覚（聴く）、味覚（味わう）、嗅覚（嗅ぐ）、触覚（皮膚で感じる）の五つの感覚のことです。もともとは古代ギリシャのアリストテレスが分類したことに端を発しており、それが様々な文化に引き継がれ、現在でも広く通念として用いられています。現在では、触覚は、単純に皮膚の感覚を脳に伝えるものではなく、表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）、深部感覚（圧覚、位置覚、振動覚など）など多様な機能を含んでいることが明らかになっています。また、触覚以外の感覚として、内臓感覚、平衡感覚などが存在することが分かっています。

ケ、ミツバチは、地磁気（地球が持つ磁性）を感じる能力をコンパスのように使って方位を正確に把握し、季節に合わせて移動しています。二〇一九年には、東京大学やカリフォルニア工科大学などの共同研究チームがヒトには地磁気を大まかに感じ取る能力があるとする研究成果を発表しました。TRPチャネルは五感とは別の、温度や化学刺激を感じ取る細胞の感覚センサーです。現在ではTRPチャネルにはいくつも種類があり、ヒトのほとんどの細胞にいずれかのTRPチャネルが存在していることが明らかになっています。また、TRPチャネルは温度・触覚だけではなくメントールやカプサイシンなど化学刺激を感知して反応することなど、その正体が明らかになりつつあります。近い将来には第六感のすべてが科学的に解明され、第七感の研究が始まるのかもしれない。

不老会の集い

令和4年10月20日(木) 名古屋市公会堂に於いて、
「不老会の集い」が開催されました。

公益財団法人 不老会の集い
「歳々・風雨の歴史・光を照らす」

11時頃になって、お一人のご婦人が現れた。まだ開場まではたっぷり1時間半もあった。足が少しばかり不自由になられた介護1級の春日井からの方で、最前列を確保するための早目の来場だった。

11時40分過ぎて、やっと扶桑から、ついで北名古屋から…次々に…。

40名ほどご婦人が集った12時頃になって、やっと、待望(?)の男性がお二人現れた!お一人は豊明から、今一人は吉良町からだった!

開場20分前には、正面に百数十名が集った。

12時半!いよいよ開場だ!待ち受けるスタッフたちの出番だ!お一人お一人に、お土産と式次第と座席番号連絡票を手渡す。

会場内では、早くも、HSE48によるオープニング演奏が始まっていた。HSE48は愛知・岐阜両県の中高年で編成したバイオリンアンサンブルで、会場では「サウンドオブミュージックメドレー」のほか、同団のオリジナルソング「プラチナのように」などの演奏でみなさまをお迎えしていた。

13時30分式典だ!

まずは、今までにご成願された1万1298柱への黙祷。

次に、久野理事長からの挨拶。

「息が苦しいのでマスク無しで失礼します。実は、わたくしは雨男なのですが、みなさまが晴れを運んでくださったお陰で、足元が汚れないで済みました。コロナの影響でここ数年間は入会者が半減しましたが、ようやく増加の傾向に向かっています。また、免許証更新時、その裏に臓器提供の意思表示ができる枠が設けられておりますが、事故による身体の損傷のケースであって、献体では最後の最後まで身体の損傷無しで成願していただきたい。献体は医学の進歩発展に不可欠ですが、どうかご成願までは、いっぱい楽しんでいただきたいと願っております。」

県知事の代読のあと、河村市長のご登場。

「日本一給与の安い河村です!名古屋市は救急搬送時間ランキングでは日本一短い。京都は2位です。また、コロナのワクチンについては、政府の認可が外国製に偏っていて、すでに世界の複数国で実績のある日本製のイベルワクチンが日本





の厚労省では×とされていて甚だ残念だ。今日は、志の高いみなさまの集まりにご招待されて感謝です。では、こんなところで、Thank you very much!」

壇上の来賓全員のご紹介で、式典は終了。

次は、名古屋市立大学大学院の植木孝俊教授による「健康寿命をのばす～最近の医学でわかったこと」と題した講演があった。

その後、名古屋大学医学部医学科2年生の今泉天祐さんから、解剖実習体験発表があった。

お待ちかねのアトラクション！愛知県唯一の大衆演劇“御陵一座”『暎の母』の上演！

拍手喝采の内に幕を閉じ、皆様笑顔で帰路につかれた。

植木孝俊教授のご講演

健康寿命をのばす ～最近の医学でわかったこと」

名古屋市立大学大学院 医学研究科統合解剖学分野 教授 植木 孝俊 先生



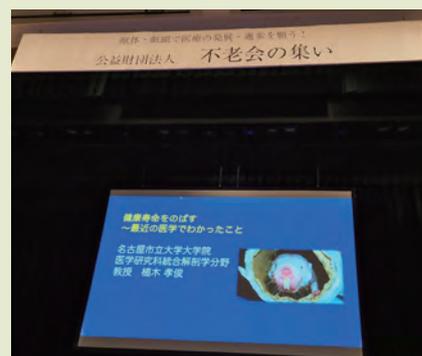
今、100歳以上の人は10万人くらいいます。いったいヒトは何歳まで生きられるのか？

明治以降の統計グラフで見ると、男性は徳之島の泉重千代さんで120歳、女性ではつい先ほど亡くなられた福岡の田中力子さんで119歳の方でした。このように、明治以来の統計では、120歳がヒトの寿命の限界なようです。ヒトの死亡要因のトップはガンです。

生物の寿命はプログラムされているものが多い。ショウジョウバエの寿命はたったの2日です。また、ハダカネズミの寿命は30年ですが、

ガンにならない。その要因は、ストレスを極端に軽減して、布団に寝っ転がってばかりで働かない低体温・低代謝の省エネ動物だからです。

①適度な運動②適度な食生活③十分な休養こそが長期の健康寿命につながると言われています。近い将来、科学技術でより長寿命が実現されることでしょう。



学生体験発表

感謝の言葉

名古屋大学医学部医学科2年生 今泉 天祐 さん

今年の春から夏にかけて約3か月間解剖実習として、献体と真摯に向き合い人体について深い理解を得ました。幼少期に高熱を出したとき丁寧に診てくれた先生の格好良さに憧れて、両親に買ってもらった病気や薬の図鑑を読み、人体の構造に興味を持ち、医学部入学前から解剖実習を心待ちにしていました。でも、実習に入ると不安や緊張で胸が一杯だったことを、今も鮮明に覚えています。何よりも痛感したのは実習で多大な知識を与えられて甘かった私を正しく導き、人命を救うという強い覚悟を芽生えさせてくれました。また、死生観を考える重要な体験にもなりました。実習を進める内に、人体はあらゆる医学知識が詰め込まれた宝箱のように感じました。様々な視点から観察し、時には手で触れて感触を確認し、教科書では得られない新鮮さを日々覚えました。また、先生からは、医療ミスの事例を交えて命を扱う医師の責任の重大さも繰り返し教わりました。皆様が献体という選択をとってくださったことを、厚くお礼申し上げます。



バイオリンアンサンブル HSE48



みささぎ
大衆演劇“御陵一座”
「暎の母」



名古屋市立大学会員の集い

去る十月十八日(火)に、二年ぶりに「会員の集い」が、本部棟四階のホールで開催されました。

鈴木副部会長の司会による開会挨拶のあと、全員起立姿勢で、成願者に黙祷を捧げ、次いで、齊藤部会長から「コロナ禍の中、よくおいでくださいました。役員を除く一般会員の参加者は十三名でしたので、コロナ禍以前の参加数の半数以下に留まりました」と。

次に、大学側から高橋智・医学研究科長さんからのご挨拶を賜ったあと、不老会から杉山常務理事より「ある本に若い頃に秀才であろうと美人であろうと、また一流企業に勤めようと、人間の着地点は大差ない。重要なのは、品格のある衰退だ」とのメッセージがありました。

ついで、演題「加齢と難聴」と題しての健康講話が耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野の南方寿哉先生が、スライドで優しくお話をされました。

そのあと、大学側の特別なご配



医学生さんとの懇談会風景

慮で、会員と解剖実習を終えたばかりの二年生の医学生さんとの懇談会が開かれました。ディスカッションを保ちマスク着用方式でしたが、大いに対話が弾んだようで、「身近に話ができ、嬉しかった!」と、全員から高評価を得ました。

なお、午後二時半からは、大学主催による「解剖感謝式」が、成願者のご遺族列席のもとに、さらさら講堂にて、厳粛に執り行われました。(広報・齊藤 光男)

不老会四地区合同の集い(阿久比・常滑・半田・知多南部)

十一月十一日(金) コロナ禍の中、三年ぶりに四地区合同の集いで、参加者は三十五名と少し減りましたがマスク着用、手指消毒、検温等集団感染予防に細心の注意をして開催しました。

成願者に黙とうを捧げ、近藤地区代表のオープニングあいさつがあり、次に本部より理事長代理の浅井常務理事のあいさつをいただきました。「世の中の人のため遺体を役立てていただき立派な医者になってもらいたくして献体するわけ

であります。」と。また、「解剖する前は、なんとなくあやふやな気持ちで解剖の実習講義に臨んでいたが、遺体を前にしたとき心が決まって立派な医者を目指している」とハラが決められました。との医学生の声が紹介されました。

次に「上手に食べて元気に過ごそう」との演題で、管理栄養士の方から講演がありました。「低栄養になるとどうなるの?」「こんな食生活、思い当たりませんか?」と問題提起されいろいろな角度から説明がされました。結論としては、これからの食事については、



「皆さん、元気ですかー！」

「二日三食、バランスの良い食事で身体機能の低下を抑制させることが重要」とのこと。さらに「たくさん食べる」ことよりも「まんべんなく食べる」ことを心がけようとの呼びかけがありました。最後に「十食品群のチェック表」をもらい自分の食事を見える化して検討してみてくださいとの提案があり、参加者は早速やってみようと思気込んで四地区合同の集いを散会しました。(半田市地区・山本 勝彦)

ありがとう

不老会成願者から角膜の提供をうけ、光を取り戻した方からお礼状が事務局に届きました。

❀ 清 須 市 田中 成人様

会 員 投 稿

● 熟し柿 主より先に鳥の客

大府・東浦 野村 悦子



● 442年ぶりの皆既月食と天王星食 (R4.11.8)

熱田区 鈴木 慎吾

献体の塔 清掃報告

九月二十二日(木)今にも雨が降り出しそうなか、お掃除を始めました。この時期は、塔内の湿気が多く、溜まった水を汲みだしたり、塔周辺の雑草を取ったり、そろそろ終わりにと思った頃、雨が降り出しました。急いで掃除道具を片づけ帰路につきました。参加者十六名。



※東濃地区 早川博文様より「献体の塔の清掃奉仕作業時に御利用を
して下さい。」と沢山の軍手をご寄付いただきました。活用させていただきます。ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。
(事務局)

不老会会員のご家族にお願い

- 会員様のご逝去のとき、
すみやかに、下記の登録されておられる大学窓口へご連絡ください。
その際、電話に出た方に「不老会の会員ですが。」とお告げください。
そのとき、これからの献体のことについて、大学側との詳細な打合せが行われます。

<大学窓口の電話番号（不老会への参画順）>

名古屋大学医学部

- ・平日（9時～17時） (052) 741-2111 大学の献体事務室
- ・夜間や土、日、祝日など (052) 251-9296 代行窓口
- 上記以外の日時 (一柳葬具總本店)

名古屋市立大学医学部

- ・平日（9時～17時） (052) 853-8121 大学の献体担当
- ・夜間や土、日、祝日など (052) 251-9296 代行窓口
- 上記以外の日時 (一柳葬具總本店)

愛知学院大学歯学部

- ・年間をとおして（24時間） 0120-365-254 代行窓口（愛昇殿）

藤田医科大学医学部

- ・年間をとおして（24時間） (052) 910-1400 代行窓口（ティア）

愛知医科大学医学部

- ・年間をとおして（24時間） (052) 794-1811 代行窓口（田中葬具店）

- ご逝去にともない、ご用意いただく書類

- ・死亡診断書（医師から受ける： **正本1通、コピー2通**）

正本1通は、市役所・区役所や役場に火葬許可を申請するときに提出します。

コピーは、1通は献体先の大学に、1通は献眼先のアイバンクに提出します。

- ・火葬許可書： **正本1通**

死亡診断書の正本を持参して、市役所・区役所や役場で交付を受け、ご遺体受け取りの大学に提出してください。火葬場は名古屋市八事斎場です。

注…交通事故、変死で死亡した場合及び死亡時に危険な感染症に感染している場合は献体できない場合がございます。（詳しくは、登録大学にお尋ね下さい。）

編集後記

新しい年をお健やかに迎えおめでとうございます。

うさぎの様にピョンピョンと楽しい広報誌「不老」をお届けしたいと思っております。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

（広報委員会一同）



地球の健康と
すべての人々の
健康で豊かな生活に
貢献します。

 SUZUKEN